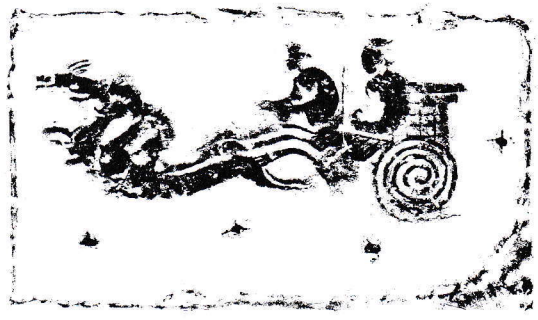
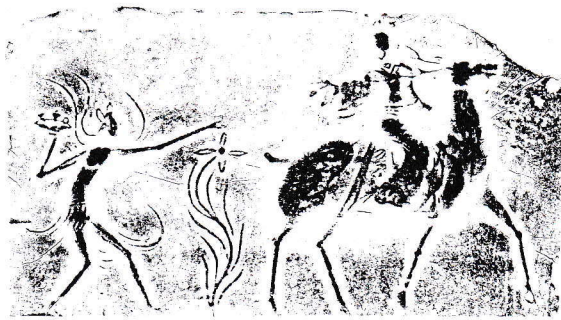




大分県書道

令和7年5月号 No. 419

「常に胸中に夢を有^{たも}とつ」

「胸中有夢」。自分だけの心に秘めた夢（目標）を持つて楽しく生きたものです。

花。花のように美しい心。花のようにきれいな姿。そんな人になろう。※小学校卒業の時に先生から送られたことばです。

右は3月末の第8回驥の書展に「ゆれる花壇」と題して色紙額210枚を吊して縦5m横4.3mの大作を展示しました。そのために「あなたの好きな花ことばを私に書かせてください」と広く呼びかけたところ、寄せられた申込書の一通です。一目見た時、「?私と同様の考

えの先生も居るんだ」とうれしくなり鋭意揮毫。

ところがである。書展の初日、ご本人藤澤和子さんがご来場。ビニル袋に入った古いサイン帳を手「長い間思い続けていましたが、先生に毛筆で書いてほしかったのです」と。文中の先生は私だったのか！サイン帳をめくると青色のマジックペンで「花と大字、後文を小字で書いてある後に1の2枚（印）」とある。初めて1年生を担任した忘れもしない年度だ。印は出勤簿用。昭和41年3月佐伯小学校を卒業する彼女は職員室に居た私に記念のサインを求めたのだ。「他の先生」とはだれであろう私だったのだ。胸にジンと

きた。

自作語「心身如花」は40歳前の自戒のための作語だが、それより10年も前から、なんとなく自分の生きる信念のモチーフに花を当てていたことが証明できてうれしくなった。約60年も前から変わらぬ夢を持つて生きてきたことになる。それにしても何よりうれしいのは藤澤和子さんの生きる信念だ。担任でもなかった私の送ることばを今日まで忘れないで指針に生きてこられた由を知り、今回展第一等の感激となった。お互い健康長寿を目指そう。

諸人の教えとなりしひとことは千々の黄金に かえんものかは

（日本の道歌より）

名誉顧問

牧

泰正

（泰瀧）